

令和6年度学校関係者評価

慈恵福祉保育専門学校 介護福祉学科・保育学科

令和6年度学校関係者評価委員

●関連業界関係者

竹内巳智子 様 : 介護福祉学科 第1回生卒業生

●関連業界関係者

石原美智子 様 : 社会福祉法人 さくら福祉園 じけいの森 保育指導

●卒業生

浅田寛子 様 : 社会福祉法人 碧晴会 (実習生指導担当者)

●卒業生

岩下豊 様 : 社会福祉法人 百陽会施設長

●近隣住民代表

天野敏子様 : 岡崎市地域代表

<教育理念・目的>

評価項目	平均
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
・学校における職業教育その他の教育指導等の特色が押さえられているか	3
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・非常勤講師等に周知されているか	4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

【現状の課題】

- ・教職員全員が共通理解の下に実践することが必要。

【今後の改善方策】

- ・本校が目指す教育方針の理解を求める知らせを、学生及び保護者の意識や価値観を想像しながらできるだけ丁寧に周知していく。

【関係者評価】

- ・学生の質は年々変わってきており、また留学生も入学しているが、理念・目的・育成人材像はかわらないことが大切である。留学生も個人差はあるが、大半の学生は理念など理解してくれているといえる。

<学校運営>

評価項目	平均
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	3
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	3
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
・ 学生の健康管理を行う組織体制を整備し運営しているか	4
【現状の課題】	
・ 教職員の休日出勤における振替休日を取得できるよう取り組んでいるが、まだ全員がとれていない現状である。	
【今後の改善方策】	
・ 勤務体制の見直しから3年目となり、次年度から土曜日（体験入学）全員出勤日と人員固定出勤日を決め、休日確保に努めていく。	
【関係者評価】	
・ 教職員の休日は、現在の社会情勢である働き方改革からも必要であると言える。	
・ 職場においても現在、職員からの権利主張は強く、5分前出勤などの指導ができない状況にある。	

<教育活動>

評価項目	平均
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
・ 人材育成像に沿った教育課程の編成・実施方針の周知を図っているか（学生・教職員・HPによる外部への周知等）	3

・関連分野の企業・関係施設等、業界団体、卒業生等の意見を聞く機会を設け、教育課程を編成しているか	4
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等と連携して実践的な職業教育が実践されているか（実習事前・事後の打ち合わせを行う）	4
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・講義、演習などにおけるアクティブラーニングを展開しているか	4
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等と連携をして実習、実技、演習を行っているか（巡回指導教員と実習指導者が連携を図り各段階における「達成目標・課題」について確認している）	4
・職業教育において人材育成像が示す能力が身につくような取り組みを行っているか（カリキュラムに沿った授業・シラバスに沿った授業を実施しているかの調査を行っている）	3
・倫理的行動（身体拘束禁止・虐待防止・ネグレスト）について考える機会を導入しているか	4
・障害者・障害児に関する基本的な知識・技術を習得できるプログラムを導入しているか	4
・自立支援や予防を目的に潜在能力を引き出す技術が身につくプログラムを導入している	4
・専門分野における資格、要件を備えた教員を確保しているか	4
・教員の資質向上への取り組み、施設、保育園などと連携した研修会を行っているか	3
・教員の資質向上への取組として授業評価を行っている	3
・必要な組織体制を整備しているか	4
・成績会議、単位認定、進級・卒業判定の基準を明確に定めており、適正に運用しているか	4
・学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運用しているか	3
・卒業生への支援体制を整備し、適切に運営しているか	3
・学生相談に関する体制を整備し、適切に運営しているか	4

【現状の課題】

- ・施設、保育園などとは個別に資質の向上に努めている。今年度はインフルエンザ感染が流行しており、やむを得ず施設変更をしなければならなくなった実習があった。
- ・職員の能力開発のための研修機会・研修時間の確保。

【今後の改善方策】

- ・実習においては、コロナやインフルエンザにて中止となった場合であっても、学内演習ではなく長期休み等を使用し施設又は園への実習ができるよう努力する。
- ・授業評価において毎回小テストにて確認できるよう取り組んでいる。中には小テストが行えていない科目もあり、再度周知できるよう努める。
- ・講義録内に授業評価を加え、分析することで次年度への取り組みに変化がみられているため、引き続き行っていくよう努める。
- ・教職員自らの専門分野等の知識・技術向上を図る。

【関係者評価】

- ・学内演習ではなかなかコミュニケーション能力等身につかないため、やはり利用者の方と関われる現場実習がよいといえる。
- ・実習においてマスクは必須ではあるが、実習生の実習前の行動確認や検温を必要としている施設が、1施設ということでコロナ等が落ち着いてきたといえる。

<学生指導等>

評価項目	平均
・ 基本的な生活習慣の確立のため取組が行われているか	4
・ 学生、留学生に対する相談体制を整備し、適切に運営しているか	4
・ 学生・保護者からの相談体制が整備されているか	4

【現状の課題】

- ・留学生の健康管理を強化する必要がある。
- ・年金、健康保険料、市県民税などの滞納があるため、定期的に確認の必要がある。
- ・学生による保護者への伝達不足により、周知できていない出来事があったことから、保護者との連携をより強化する必要がある。

【今後の改善方策】

- ・留学生内で自治会を立上げ、学生同士で意識し合い寮の衛生面等の管理ができるよう取り組む。
- ・滞納によるリスク（ビザ更新に影響する）など周知させ、支払い期日を守るよう指導する。
- ・家庭との連絡を一層密に行い、必要であれば家庭訪問を行う。

【関係者評価】

- ・ 学生からの要望・不満等を聞き、対応していることはよいといえる。
- ・ 施設でも職員の保護者へ伝達することをすることはある。社会人として、自覚を持って行動してほしいと切に願う。

<学習成果>

評価項目	平均
・ 学生が身に付けた学修成果は、目標とする水準にあるか	3
・ 目標達成が十分でない場合、教育活動などの改善を図っているか	4
・ 就職支援・相談体制を確立し、就職率向上に十分取り組んでいるか	4
・ 就職率は目標とする水準にあるか	4
・ 離職率や職場定着率を改善する取組をしているか	3
・ 国家試験受験対策の体制を確立し、合格率向上への取組みを行っているか（介護福祉学科）	4
・ 国家試験の合格率は目標とする水準にあるか（介護福祉学科）	3
・ 退学率低減への取組みを実施し、目標とする水準にあるか	4

【現状の課題】

- ・ 学習面において目標水準に達成していない学生が少数存在する（留学生を含む）ため、改善する。
- ・ 介護・保育に関しては多くの求人があり、引く手あまたの状況であることより、学生に適した施設・園への就職へと結びつけることが必要である。
- ・ 国家試験合格率に関して、今年度の留学生においては、昨年度の反省から初期からグループ分けを実施し、グループレベルに合わせ担当教員が進捗状況を把握し、進めた。また、模擬試験を曜日固定し、本人に習得状況を把握させたが、目標値には達成できなかった。
- ・ 学生の家庭、人間関係事情等悩み事を早期に把握し、退学者を防ぐ。

【今後の改善方策】

- ・ 個別対応として、分かりやすく砕いて説明し、理解できるように対応する。
- ・ 卒業生の動向を施設・園等訪問の際、しっかりと把握する。退職している場合は、本人の希望により、関わりを継続しフォローアップする体制を整える。
- ・ 今回、留学生にとって難易度の高い言葉の表現が多く、介護における知識はあっても問題の意図が理解できない部分が多々あった。日本人は全員合格圏内である。
次年度に向けての対策として、難しい言葉の表現を調査・把握し、無理のない量の問題を留学生に対し毎日出題し理解できるように出題していく。また、1年次・2年次に1コマずつ国試対策授業を取り入れ、問題を正確に理解できるようにする。
- ・ 退学者は今年度若干名おり、進路変更が理由であった。入学時に、仕事内容のイメージが今以上に明確になるよう伝えていき、卒業に結び付けられるように努める。

【関係者評価】

- ・日本人でも言葉の言い回しなど難しいという状況である。2年間しっかり勉強しているため、知識の確認となるような問題の出題方法でよいのではないか。

<学生支援>

評価項目	平均
・学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運用しているか	3
・卒業生への支援体制を整備し、適切に運営しているか	3
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	3

【現状の課題】

- ・学生の家庭状況・経済状況により就学が困難になった場合、可能な限りの支援策について教員全員が情報共有する。
- ・留学生の生活環境の把握。

【今後の改善方策】

- ・引き続き担任・副担任の面談及び、相談窓口を設け伝えやすい環境を作る。
- ・職員会議にて担任から早期に情報提供をし、職員全員で共有し対策に取り組む。
- ・留学生に承諾を得て、今後も定期的に自宅訪問をし、生活環境を把握するとともに、留学生による自治会を昨年度設立したため、留学生同士でも協力していく。

【関係者評価】

- ・留学生の対応、大変だとは思いますが、他国から親元を離れ一人できているため、困りごとなど言いやすい環境作りが必要であるといえる。

<教育環境>

評価項目	平均
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を図書室に配架し、学生に必要な応じ閲覧できるような環境を提供しているか	3
・防災に対する体制は整備されているか	3

【現状の課題】

- ・スマートフォンにおける語彙等の検索を実施し、図書室が十分活用されていない。
- ・法人内において、幼稚園 保育園 デーサービス グループホーム等の実習先があるが、さらに踏み込んだ実習内容の整備が必要。
- ・避難訓練の内容、回数をマンネリ化させない。
- ・大規模災害への対策が十分検討されていない。

【今後の改善方策】

- ・魅力ある図書室となるよう、多くの文献、雑誌等を整備する。
- ・消防署と連携した災害訓練を計画し実行する。

【関係者評価】

- ・パソコンを今年度 27 台購入しているが、パソコンは日進月歩で進化しており、古いものと新しいものでは速度が異なるため、全体で進めるにはタイムラグがあり難しいといえる。
- ・スマートフォンの普及により、書籍を読む学生は減少している。わざわざ図書室には行かないであろう。

<入学者の募集、入学選考>

評 価 項 目	平 均
・ 入学者受け入れ方針を明確にしているか	4
・ 入学者募集活動入学者受け入れ方針に従って適正かつ効果的に行っているか	4
・ 入学選考方法を明確に定め、適正に運用しているか	4
・ 入学手続きは適正に行っている	4
【現状の課題】	
・ 介護福祉学科の留学生の受け入れ基準を明確にする必要がある。	
【今後の改善方策】	
・ 本校独自の魅力を P R する。	
【関係者評価】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 技能実習生・特定技能の外国人と比べると留学生は即戦力となり働くことができている。近隣の日本語学校・専門学校の学生に、魅力を十分に SNS などでアピールして入学してもらいたい。 ・ 職場体験は大切です。小学校・中学校で体験しておくことで、保育士・介護士を目指したいと思ってもらえることもあります。 	

< 財 務 >

評価項目	平均
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4
【現状の課題】	
・ 介護福祉学科においては留学生を今後も受け入れていくが、多国籍となるため文化の違いなどにも十分配慮する必要がある。	
【今後の改善方策】	
・ 備品、消耗品の排除するよう努める。	
【関係者評価】	
・ 財務情報の報告はホームページで公開されている。	

<コンプライアンス等>

評価項目	平均
・ 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
・ 学校評価の実施と結果の公開はしているか	4
・ 学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、結果を公開しているか	4
【現状の課題】	
・ 学生間の SNS の利用により、学校が把握しきれないところで、個人情報(顔写真等)がネット上に流れてしまう事例等を防止する。	

【今後の改善方策】

- ・行事の写真閲覧等に関しては、必ず本人の同意を得、拒否する場合には削除し確認後に閲覧へと導く。
- ・SNS 利用等、情報リテラシーの向上及び情報モラルについて、職員間内で確認し、担任より学生へ問題事例等上げ周知できるようにする。

【関係者評価】

- ・個人情報施設や園でも十分注意している。

<社会貢献・地域貢献>

評価項目	平均
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
【現状の課題】 ・教育資源を活かした地域貢献の推進をする。	
【今後の改善方策】 ・本校教育資源に対する地域社会の要望を集約する機会を生み出していく。	
【関係者評価】 ・慈恵福祉が行っている地域との関りのあるペンギンクラブなど地域住民の方に浸透している。 ・今後、もっと地域行事も復活していくとよいといえる。	

V 総合的な評価結果

昨年度からの改善により、各取り組み状況については、「適切」「ほぼ適切」と評価できる。

さくら学園の教育活動の根幹である校訓「誠心」を全職員・全学生で大切にし、一人一人の学生に寄り添った、きめ細かく丁寧な指導により、心豊かで自律心に富み、社会に貢献できる人材に成長し卒業している。関係施設・園からも「即戦力となり、必要な存在」と称賛されている。今後も感染対策を十分に行い、一人一人としっかり向き合い、学生に合ったきめ細かな教育に取り組んでいく。

全教職員で、全ての学生（留学生を含む）に誠実に対応し、学生自身が自ら考え行動できるよう教育環境を整え、評価結果を真摯に受け止め、時代のニーズに応える職業教育を継続していく。